

ガラスフランジの取扱いについて

☆締め付け方



- ① クランプを締めこんでいくとガラスを通して
Oリングが押さえつけられていく様子がわかります。
Oリングの押さえ込まれている幅が1mm-2mm程度で十分気密が取れます。
2mm以上締めると破損の原因になりますのでご注意ください。
- ② クランプとガラスパイプが接触すると破損の原因となりますので、
接触するまで締めないようお願いします。
- ③ 超高温タイプはトルクリミット付タイプのご用意がありません。
締め過ぎないようにご注意ください。
- ④ ガラスに外的な力が加わると割れる可能性があります。
例 1：重いものをつける
真空計など重い物を直接つけるとガラスの一部に過剰な力がかかり
ガラスが割れる可能性があるため、真空計を上から吊るすなど、
ガラスに負荷がかからないようにして下さい。

例 2：振動があったりアライメントずれている
装置の一部に組み込む場合はベローズやフレキホースなど、
振動やアライメントのズレを吸収するものを間に挟む方が安全です。

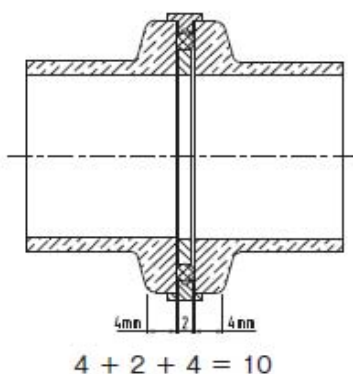


接続の組み合わせ例

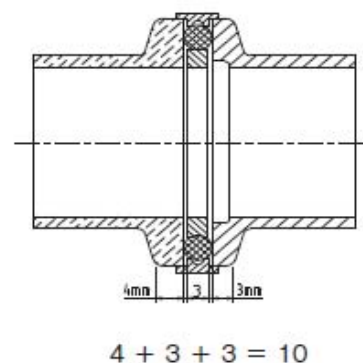
ご使用に際して (NW16-63)

- ガラス製フランジの寸法はNWフランジに準拠しておりますが、チェーンクランプの締付けに対する強度を持たせるため、フランジ部の厚みを4mmとしております。(一般的な金属製のフランジは3mm)
- このため、ガラス製フランジ同士の接続には、厚み2mmの専用エラストマーシールを、金属製フランジとガラス製フランジの接続には、厚み3mmの専用エラストマーシールをご使用いただき、フランジ - シール - フランジの厚み合計が10mmとなるように選定してください。
- NW80~NW125までのガラスフランジでは、ウォールクランプを使用することにより壁にタップをたて、取り付けが可能です。

ガラス製フランジ同士の接続



ガラス - 金属製フランジの接続



金属製フランジ - ガラス製ブランクフランジの接続

